



学校だより



5月号

令和5年4月28日
横浜市立善部小学校
校長 朝川 健太郎

自己有用感を高めるために

校長 朝川 健太郎

新学期が始まって1か月が過ぎ、子どもたちも新しい学年での学校生活に慣れてきたようです。1年生にとっては、「初めての給食」「初めての身体計測」「初めての音楽朝会」など何をするにも初めての事ばかりですが、どんな場面でも落ち着いて活動できています。先日行われた避難訓練でも「お・か・し・も」を守りながら落ち着いて避難していました。

1年生が安心して学校生活をスタートするためには、「スタートカリキュラム」が欠かせません。「スタートカリキュラム」とは、日課表や学習のカリキュラムを弾力的に運用し、1年生が安心して小学校生活をスタートできるように編成したカリキュラムのことで、幼稚園や保育園とも連携し、幼児期の学びを踏まえつつカリキュラムを編成しています。

善部小学校の1年生は登校すると自分たちの好きな場所で好きな遊びをして過ごします。これが「のびのびタイム」です。校庭で遊んでいる子、花を見つけて観察をしている子、校舎内を探検している子、教室でお絵描きをしている子など様々です。教室に戻ったあとは、学級での仲間づくりを行う「なかよしタイム」、生活科を中心に学ぶ意欲を高めるための「わくわくタイム」、徐々に教科等への学習へ移行していく「ぐんぐんタイム」とそれぞれの取組を段階的に行っていきます。この「スタートカリキュラム」によって子どもたちは安心して小学校での学びをスタートさせています。今後もより一層、幼稚園、保育園との連携を深めながらスタートカリキュラムを充実させていきたいと考えています。

さて、内閣府より令和5年3月に「こども・若者の意識と生活に関する調査報告書」が発表されました。その中で、自己肯定感や自己有用感に関する調査においては年齢が上がるにしたがって否定的な回答が増えていることが明らかになりました。自己肯定感とは、「今の自分が好きだ」と他人と比べることなくありのままの自分を肯定する感情で、自己有用感とは、「自分が人の役に立っている」と人との関わりの中で評価されることによって得られる感情です。自己有用感が高まることにより、自分に自信をもち、様々なことに挑戦していく意欲や前向きに取り組む力がつくと言われます。また、人の気持ちを理解し、思いやりの気持ちをもって接することができるようになります。自己有用感を高めるには、

- 子どもとしっかり向き合い、話を聞いてあげる。
- 大人の基準ではなく、その子なりのがんばりや努力していることを認めてあげる。
- 失敗や間違いがあっても前向きな言葉で次に向けてアドバイスをする。

このようなことを意識して子どもと接することが大切です。学校では、行事や宿泊など様々な場面で、自己有用感を感じられるよう教育活動を進めていきます。家庭・地域においてもそれぞれの役割を果たしながら自己有用感を高められればと思います。

